

(様式2)

令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和6年3月26日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者 (申請者)

所 属 教育学部

職 名 客員研究員

氏 名 宮地歌織

下記のとおり令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	女性器切除をめぐるオーストラリアとアフリカの現状についてのセミナー		
2.事業責任者 (申請者)	宮地歌織	3.所属・職名	教育学部・客員研究員
4.開催期間	令和 6年 2月9日		
5.申請区分	A) 学術交流協定 (大学名) <input checked="" type="radio"/> B) 共同研究 C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿 (別添) を添付	参加者数 <u>36</u> 名 内、 <u>外国人</u> 33 名、 <u>研究者</u> 31 名、 <u>学部学生</u> 0 名、 <u>修士以上学生</u> 5 名		
7.招待講師	所 属 <u>シドニー大学</u> 職 名 <u>准教授</u> 氏 名 <u>Nesrin Valor</u>		
8.支出額	金 額 <u>245,329</u> 円 【内訳】 <u>謝金</u> 0 円 <u>旅費</u> 245,329 円 <u>消耗品費</u> 0 円		
9.国際研究集会の内容 (実施の様子について、2~3枚程度写真をご提供ください)	(相手国・地域: オーストラリア 相手機関: シドニー大学) 本事業は、共同研究を行っているオーストラリアのシドニー大学医学部産婦人科の Nesrin Valor 准教授とともに企画したセミナーである。申請者はこれまで FGM (女性器切除) について長年ケニアでの調査研究を行ってきており、現在も科研での研究を実施中である。FGM についてはアフリカのみならずマレーシアやカンボジアなどのアジア地域で調査研究が行われている。本研究集会では、申請者がこれまで行		

ってきたケニアでの調査の他にも、他のアフリカの事例、またマレーシアでの調査研究（井口教授、Rashid 教授、大学院生の Afiqhar 氏）による発表が行われた。またオーストラリアは移民国家として知られているが、ケニア、エチオピア、スーダンなど FGM を実施している国からの移民や難民もいる。シドニー大学の Valor 准教授はそれら FGM 施術を受けている妊産婦の出産サポートをしており、本集会では Valor 准教授とともに FGM 経験の妊産婦をサポートしている Sabera 氏（助産師）からもオーストラリアでの現状についての調査研究が報告された。本イベントはシドニー大学とシドニー工科大学の関係者の協力を得て、会場とオンラインとの両方で実施され、オーストラリア各地、日本、英国、マレーシアなど様々な国からの参加があった。また参加者についてもエジプト、スーダン、アフガニスタン、中国など多様な背景を持つ研究者が多く、活発な議論となった。

【当日のプログラム】

FGM/C PROGRAM SCHEDULE

Faculty of Health FGM Seminar Ways Forward Towards the Abandonment of FGM/C

Friday, 9th February 2024, 10:00am – 11:30am
Australian Eastern Standard Time (AEST)

Hybrid mode

In-person: CB10.03.290

Zoom: <https://zoom.uts.edu.au/j/84553331591>

Hosted by:

Professor Angela Dawson (Public Health Social Scientist, UTS) and;
Associate Clinical Professor Nesrin Varol (Gynaecologist, University of Sydney)
Assistant Professor Kaori Miyachi (Shizuoka University, Visiting researcher of Saga University, Japan)

Time	
1	10:00am
	<p>Welcome and acknowledgement of country</p> <p>Prof Angela Dawson (Public Health Social Scientist, UTS)</p> <p><i>We would like to acknowledge the Gadigal People of the Eora Nation upon whose ancestral lands our City campus now stands. We would also like to pay respect to the Elders both past and present, acknowledging them as the traditional custodians of knowledge for this land.</i></p>
2	10:10am
	A/ Professor Kaori Miyachi, The Office of Gender Equality Promotion, Shizuoka University, Japan (Visiting researcher, Saga University, Japan)
3	10:25am
	Prof. Abdul Rashid Khan, Department of Public Health Medicine, RCSI & UCD Malaysia Campus, Penang, Malaysia
4	10:40am
	Prof. Yufu Iguchi, College of Asia Pacific Studies, Ritsumeikan Asia Pacific University, Oita,
5	10:55am
	Dr Sabera Turkmani & Prof Angela Dawson (Public Health Social Scientist, UTS) – research findings from ‘Strengthening woman-centred care for pregnant women with female genital mutilation in Australia’.
6	11:15am
	Questions and discussions and close of seminar
7	11:30am – 12:30pm
	Light lunch for in person attendance



(会場での様子)

2月6日は国連が定めた「女性器切除 (FGM) 根絶の日」であり、女の子と女性の人権を著しく侵害する慣習としてSDGs ターゲット5.3にも明記されている。今回は日程も近かったことから、その反FGM関連のイベントとして本セミナーが実施された。またシドニー郊外のCumberland病院では、反FGMの教育プログラムを実施しており、その病院内の研究者や、シドニー以外でFGM関連の医療的サポートを行っているメルボルンなどの他の地域からも多く参加があった。参加者からは、アフリカの諸地域におけるFGM/Cについての文化的・歴史的な背景を知ることができて大変有意義であった、という声や、アジア地域におけるFGMについて初めて知ることができたなど、という声も聞かれた。

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

本事業では、久しぶりに対面でも行うことで、これからの反FGM教育活動についても担当者と検討できる大変よい機会となった。コロナ禍ではオンラインでの同様のセミナーを実施していたが、対面で、より深い議論ができ大変有意義であった。申請者は引き続き科研にてFGMに関する研究を継続することから、今後もオーストラリアでの調査研究をより深く行うことができるきっかけとなった。また来年度からアジア地域での反FGM教育の介入プログラムを実施予定であり、それら比較研究を行うなど、幅広い研究のきっかけとなった。また本イベントには大学院生(博士課程後期)も参加していたが(オンラインも含む)、世界におけるFGM研究者が集ったことで、それら研究者同士の交流なども行われ、学生にとっても大変よい機会となった。

11. 実施者アンケート

本事業の満足度(5(非常に良い)~1(非常に悪い)): 5

支援経費は適切であったか(5(非常に適切であった)~1(非常に適切でなかった)): 5

次年度以降も本事業の実施を希望するか: 希望する

そのほかコメント: 本事業があったことで実際にオーストラリアの研究者と対面で議論をすることができ、今後の研究活動がより広がることにつながった。また日本にもこのようなテーマの研究者がいることを知ってもらえるよい機会となった。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。（Word 貼付けとは別に）